

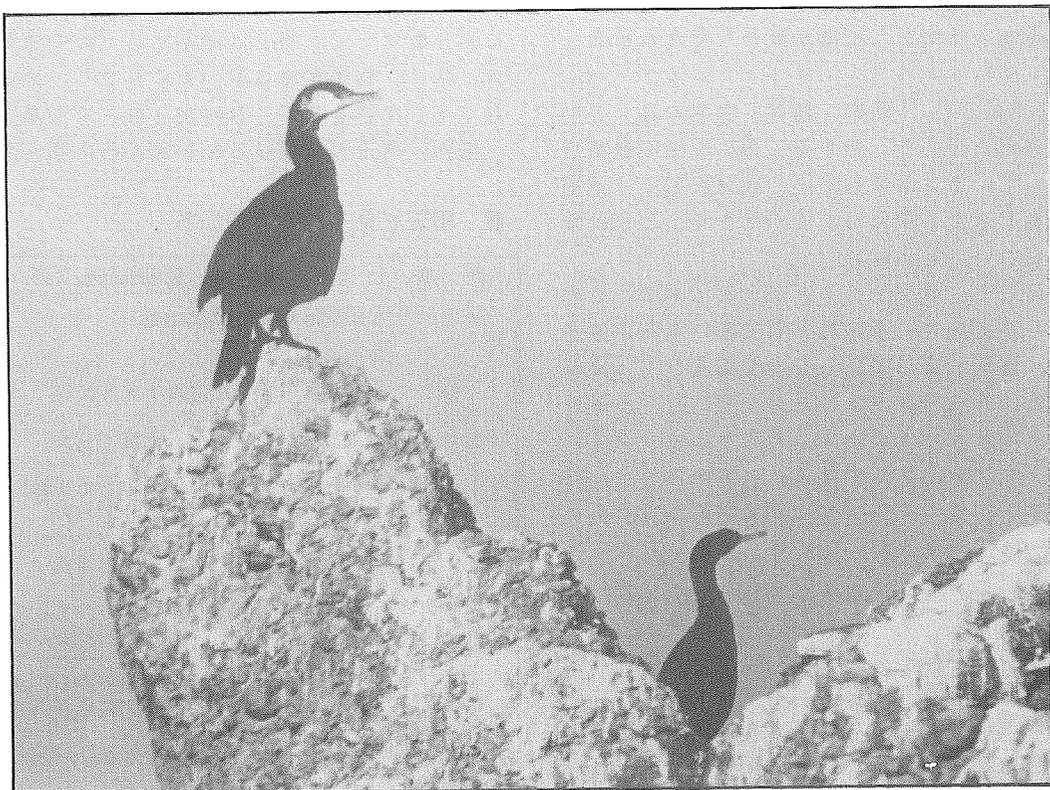


1986・12

第 31 号

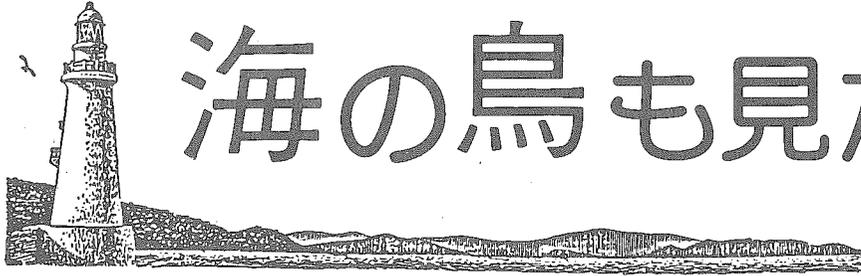
しろこぼと

日本野鳥の会 埼玉県支部



ウミウとヒメウ（ウ科） 千葉県銚子港にはカモメ類と共にウミウが多数見られます。偶然にも岩にウミウ（左）とヒメウ（右）が並びました。両者がよく比較できます。海なし県にいる我々も、時には海鳥を見に行きたいものです。

（写真と文・鈴木忠雄）



海の鳥も見たい

SEA
BIRDS

うみどり

I. この海無し県で海鳥とは!

小荷田行男

『しらこぼと』の編集部から「埼玉で冬見られる海鳥について書いてくれ」と依頼が来た。「この海無し県で海鳥とは!」と思ったが、研究部の看板を掲げている以上……。

海鳥とは何か。清樺幸保の『野鳥の事典—エンサイクロペディア・オブ・ワイルド・バーズ』を見ると、「海岸、海湾、海洋の鳥」という見出しがある。要するに海に生活の根城を置いている鳥の事らしい。別見出しに「干潟の鳥」と言う項目があるのだから、これは除くらしい。しめしめ……。

何しろ、エンサイクロペディアである。このありがたい本に海の鳥として書いてある中から、海無し県に関係しそうな鳥をひろってゆくと、カンムリカイツブリ、ウミウ、スズガモ、ホオジロガモ、ウミアイサ、オオワシ、オジロワシ、ユリカモメ、セグロカモメ、ウミネコ、そしてイソヒヨドリが相当するらしい。海に根城をおいて「まあ、たまには内陸でも遊びに行ってみるか」という御仁たちである。「本人」の、いや「本鳥」の自覚なしにこの海無し県に迷い込んで来た者たちは遠慮してもらおう事としよう。

カンムリカイツブリ。2月、狭山湖に行けば見られる。北風の中、決死の覚悟で。

ウミウ、スズガモ、ホオジロガモ、ウミアイサは、普通冬の東京湾で生活していて気分が向いた時だけ荒川を上ってくる鳥たちである。まあ、荒川のお客さんといったところか。それに比べてユリカモメは、毎日東京湾から県内の河川に沿って通勤してくる者で、仕事先、いや採餌所が県内平野部の河川にあるサ

ラリーマンである。セグロカモメはユリカモメ程に遠くには通勤せず、せいぜい県南どまり。ウミネコはもっと近距離通勤者である。

オジロワシ、オオワシは、主に魚や水鳥をねらう海ワシで、埼玉は通過するだけの旅行者。時々、物好きな鳥屋の目に止まり、めいわくそうな顔をして、さっさと行ってしまふ。

まあ、埼玉の海鳥はこんなところかな。

表 埼玉で見られる海鳥たち

科名	種名	見られるところ
カイツブリ科	カンムリカイツブリ	狭山湖
ウ科	ウミウ	荒川下流でまれ
ガンカモ科	スズガモ	荒川下流でまれ
	ホオジロガモ	狭山湖でごく少数 荒川下流でまれ
	ウミアイサ	荒川下流でまれ
ワシタカ科	オオワシ	渡りの途中のものが 冬1回位観察される
	オジロワシ	渡りの途中のものが 冬1回位観察される
カモメ科	ユリカモメ	県内平野部の河川で 普通
	セグロカモメ	県南部の荒川とその 周辺の河川
	ウミネコ	県南部の荒川
ヒタキ科ツグミ亜科	イソヒヨドリ	所沢で越冬記録あり

II. ちょっと足をのばしてみませんか

中島康夫

会員のみなさん、次の鳥の名前をご存じですか。オオハム、カンムリウミスズメ、ビロードキンクロ。大半の方がご存じないかと思いますが如何ですか。海無し県に住む我々には、なじみのない鳥達ですね。しかし、茨城県の大洗海岸迄足をのばせば、冬のシーズン観察できる鳥なのです。私もこれらの鳥を見たいが為に、毎年冬になりますと何度か訪ねます。それでは、県内では見ることのできない海鳥達が観察出来る場所を、大洗海岸を中心に紹介します。

1. 大洗港

東京⇄北海道を結ぶカーフェリーが寄港する港内には、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、カモメ類が数多く羽を休めています。オオハムやアビも、ときには見ることができます。海上が大荒れの時は沢山の鳥が逃れてきます。カイツブリ類の夏羽が見られる3～4月頃が適期かと思います。

2. 大洗海岸

年間を通じて、磯遊びや海水浴でにぎわう観光の中心になる海岸です。広い駐車場から海上を見渡して、波間に見えかくれするオオハムやアビ、ウミスズメ、カンムリウミスズメを探して下さい。岩の上や岩礁の周辺の海にはシノリガモの姿を見ることが出来ます。

3. 那河川河口と那河湊漁港

河口付近には淡水カモのヒドリガモ、オナガガモ、マガモなど多数のカモを見ることができます。海上に突出した堤防には、ウミネ

コ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、シロカモメ、時にはワシカモメなど沢山のカモメ類が休んでいます。または、海上低く飛んでいる姿を見ることが出来ます。漁港内でもカモメが多数いますので識別の勉強になります。

4. 平磯海岸

岩礁の続く海岸では岩の上を注目して下さい。白いフンで汚れている岩の上には、ヒメウ、ウミウ、カモメ類が休んでいます。海岸近くではイソヒヨドリが見られます。

5. 阿字が浦

夏の間、海水浴客でにぎわった広い砂浜も、ひっそりと静りかえっている冬の砂浜。波うちぎわをいそがしく動くミュウビング、群れで時々飛んでくるハマシギが見られます。

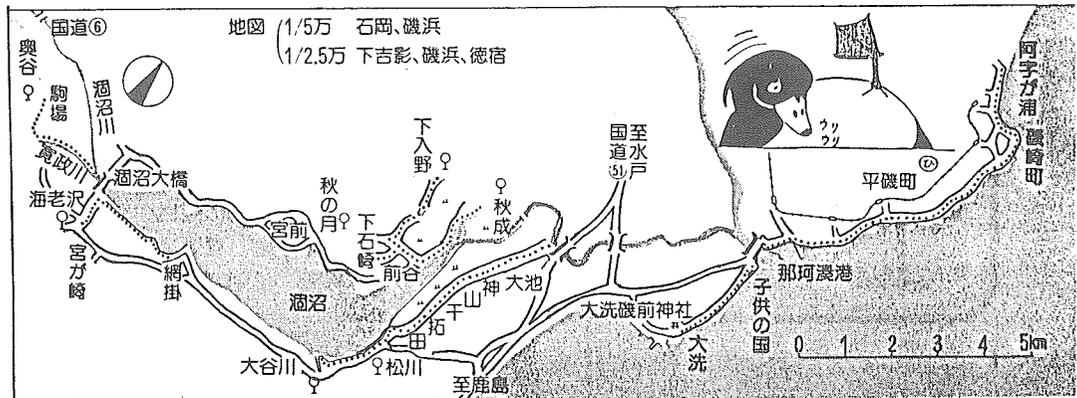
海上には、ハジロカイツブリ、ミミカイツブリの数十羽の群れが何群も浮き沈みしているのを見ることができ、クロガモやビロードキンクロなども、時おり見ることができます。

6. 酒沼

大洗に行ったら必ず寄って欲しい所が酒沼です。酒沼は海水が入っている汽水湖の為、カンムリカイツブリ、ミミカイツブリやホオジロガモもおり、毎冬オジロワンが来る所でもあります。又、カワアイサやミコアイサの姿も数多く見られます。

○車 柏I・Cか谷和原I・Cより常磐自動車道利用。岩間I・Cで降りて、約30分。

○電車 常磐線水戸駅で鹿島臨海鉄道大洗鹿島線へ乗りかえ、大洗駅下車後、バス利用が便利。



カワラヒワ君の食事法

大武百合子（浦和市）

昨年冬から今年の春先にかけてのことです。探鳥会のたびに先輩方から「庭にヒマワリの種をまいてごらんなさい。必ずカワラヒワが来ますよ」と教えていただきました。

でも一と、内心なかなか本気に出来ませんでした。あんなちっちゃなカワラヒワがいかにか口ばしがとがっているからって、あんなかたそうなヒマワリの種を本当に食べられるのかしら。一体、どうやって食べるの……？

思いきってヒマワリの種を買ってきて庭にまいてから、一週間位たったのでしょうか。何と数羽でやってきて、にぎやかに食べ始めました。

こちらはカーテンのかげから、そおとのぞいて食べ方の観察。

そして「なあるほど、あれなら食べられるわ」と納得したのです。

種を一つ平らくくわえ、上下の口ばしを互いちがいに動かしているように見えます。

種が横に割れる迄、何度でも地面において

は又、くわえなおし、そして左右に動かすことをくりかえしているのです。

そのすぐ後ろからスズメがついて歩いて、おこぼれをちょうだいしていましたが、ある時、スズメも種をくわえました。どうするかと思っで見ていると、2～3度くわえなおしたようですが、あきらめたように口からはなしました。そしておこぼれに甘んじたようでした。

口ばしの違いをこの時ほど感じたことはありません。

彼らが飛び去ったあとは、二つに割れたヒマワリの殻ばかりがちらばっておりました。

あんな栄養価の高いヒマワリの種などを食べるせいでしょうか。高い電線でキラキラコロコロ、ビーンビーンと澄んだ美しい声を聞かせてくれるのは、いつも、冬はビリッとはだをさすような寒さのきびしい日、夏はカンカン照りの焼けつくような猛暑の日が多いような気がするのです。

もうお持ちですか？

新エンブレム

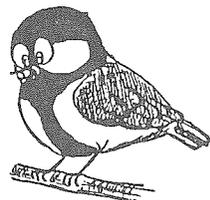
埼玉県支部オリジナルの新しいエンブレムができました。写真でおわかりのように、この非常に斬新的なエンブレムは、『しらこぼと』のイラスト風見出しをデザインした鷹尾正済氏によるものです。色はカラーでお見せできないのが残念ですが、実物を手にとってみると、きっと欲しくなること受け合いのすてきな色です。各探鳥会にて、ひとつ500円



で販売いたします（本部でも販売予定）。上着や帽子、ディパックなどに縫いつけて、会員の輪を広げましょう。

（事業部）

高倉の林・・・

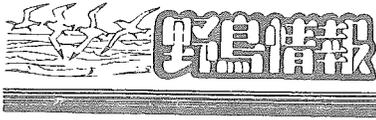


宮内滋子（鶴ヶ島町）

私の処に毎年訪れて来る夏の三光鳥、郭公、鶯なども、気温の故か例年程、多くない様な気がしておりました。あの美しい囀りが、夏の不愉快な気分をどれ程癒してくれるか判らない程ですので、其の点少々不満であり、残念であり、又、心配にもなりました。

少しずつ寒くなって参りますと、又、野鳥の姿が増えて来るのを今から楽しみにしています。

高倉の林についてゴミ焼却場の問題は、尚解決されていません。鶴ヶ島唯一の鳥の宝庫であり、残された最後の雑木林を限りなく惜しむ心で観察をしていますが、地もとの無理解と無関心に怒りつつ、愛すべき小さな生命を見守るのみです。（カット・黒田佳子）



ハジロカイツブリ ◇9月27日、秩父市上の台で1羽(西田賢治)。
ヨシゴイ ◇10月5日、蓮田市の元荒川の東北新幹線ガード下で1羽(小林恒雄)。
ホシハジロ ◇10月19日、久喜市の昭和池で約30羽(中島康夫)。
キンクロハジロ ◇10月19日、久喜市の昭和池で30羽。その他カモの仲間が約3,000羽(中島康夫)。
ミサゴ ◇10月10日、幸手市の中川で1羽(秋間利夫)。
サシバ ◇9月27日、浦和市の東浦和団地上空を南へ1羽(為貞真人)。◇10月5日、浦和市の通船堀上空を1羽(為貞真人)。
チゴハヤブサ ◇10月12日、熊谷市の大麻生で1羽(支部探鳥会)。
チョウゲンボウ ◇10月10日、幸手市の中川上空でミサゴと空中戦(秋間利夫)。
バン ◇10月5日、蓮田市の元荒川で成鳥2羽、幼鳥1羽(小林恒雄)。
タゲリ ◇10月29日、富士見市の柳瀬川の田圃で6羽(藤原寛治)。
ハマシギ ◇10月26日、川本町明戸で100羽以上(今井明巨)。
オバシギ ◇9月21日、岩槻市増長の休耕田で1羽(石川敏男)。
ツルシギ ◇9月21日、岩槻市増長の休耕田で冬羽3羽(石川敏男)。
アカアシシギ ◇10月10日、幸手市の中川で1羽(秋間利夫)。
ウミネコ ◇9月23日、浦和市の秋ヶ瀬橋付近の荒川で1羽(近藤 崇)。
ツツドリ ◇10月6日、浦和市の秋ヶ瀬橋付近で1羽(香川裕之)。
アマツバメ ◇9月26日、大宮市天沼町の大宮高校上空を約10羽(近藤 崇)。
ハリオアマツバメ ◇10月5日、日高町の高指山上空を1羽(タカの渡り調査グループ)。
アカゲラ ◇10月8日、熊谷市大麻生の森で1羽(今井明巨)。◇10月26日、川本町明

戸の林で♀1羽(今井明巨)。
ツバメ ◇10月19日、寄居町の鉢形城跡の上空を20羽以上(吉野由紀夫、岡林克信)。
ジョウビタキ ◇10月4日、熊谷市大麻生の森で♀1羽(今井明巨)。◇10月12日、浦和市秋ヶ瀬の野鳥園で♀1羽(福井 亘)。
◇10月20日、浦和市の白幡沼で♀1羽(海老原教子)。
ノビタキ ◇9月21日、岩槻市増長で冬羽2羽(石川敏男)。◇9月28日、浦和市大谷口の遊水池付近で冬羽1羽(近藤 崇)。
マミチャジナイ ◇9月30日、春日部市の春日部八幡神社で♀1羽(木村義人)。
ツグミ ◇10月19日、川口市差間で1羽(草間和子)。◇10月26日、熊谷市大麻生で1羽(今井明巨)。
オオヨシキリ ◇10月6日、浦和市秋ヶ瀬のA地区で1羽(香川裕之)。
キビタキ ◇10月26日、川本町明戸の林の中で♀1羽(今井明巨)。
サメビタキ ◇10月2日、大宮市日進町で1羽(森本國夫)。
エゾビタキ ◇9月30日、春日部市の春日部八幡神社で2羽(木村義人)。◇10月4日、大宮市日進町で1羽(森本國夫)。◇10月8日、熊谷市大麻生の森で1羽(今井明巨)。
コサメビタキ ◇10月10日、熊谷市大麻生の森で1羽(今井明巨)。
ヒガラ ◇10月12日、熊谷市の報恩寺で1羽(鈴木忠雄)。◇10月18日、大宮市日進町で3羽(森本國夫)。
ヤマガラ ◇9月24日、三芳町の多福寺で2羽(木村義人)。
オオジュリン ◇10月6日、浦和市秋ヶ瀬のA'地区で1羽(香川裕之)。
シメ ◇10月20日、川口市差間で20羽(草間和子)。
カケス ◇10月5日、北本市北本の自宅上空を4羽(田中智恵子)。



カット・鈴木高士



野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。
受付は探鳥会当日です。予約申込みは必要

ありません。

筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば
双眼鏡（なくても大丈夫）などをご用意く
ださい。小雨決行です。

参加費は、一般＝100円、会員と中学生以
下＝50円

12月6日（土） 野鳥写真教室

午後3時～6時、浦和市立コミュニティー
センター（浦和駅西口から県庁通りを西進、
中山道との交差点を左折、約600m歩いて
つきのみや神社を通り越した右側。駅から
約8分）2階の第2講座室。秩父の会員丸
山政弘さんが『秩父の野鳥たち』のスライド
を見せてくれます。ヤマシヨウビンを写
しちゃった人です。おたのしみに。後半の
スライド大会、初めて写してみた人も歓迎。
お待ちしております。（担当＝海老原美夫）

12月7日（日） 鳩山町 物見山

— 雑木林の小鳥たち —

午前8時30分東武東上線高坂駅前又は、午
前9時鳩山町公民館石坂分館集合。（朝霞
台7：49→川越8：08→高坂8：29着／武
蔵浦和7：26→大宮7：35→川越7：54→
東上線へ乗換え。高坂駅から鳩山ニュータ
ウン行バス乗車、終点下車）鳩山町中央公
民館共催。参加費無料。12時ごろ解散。
カモがいるかもコースを歩き、葉の落ちた
雑木林ではコゲラのコツコツに耳をすまし
ます。（担当＝海老原美夫、福井恒人、榎
本秀和）

12月14日（日） 熊谷市 大麻生（定例）

— 初冬の荒川河原を歩く —

午前9時30分秩父鉄道大麻生駅前集合（秩
父鉄道熊谷9：04発→大麻生9：12着／秩
父鉄道寄居9：01発→大麻生9：15着）。
ツグミ、カンラダカ、カモ類、カワセミな
ど。（担当＝鈴木忠雄、今井明臣）

12月21日（日） 浦和市 三室地区（浦和市 立郷土博物館共催・定例）参加費無料

— 今年の“トリ”探鳥会は三室で —

午前8時15分北浦和駅東口又は、午前9時
郷土博物館前に集合。午後12時ごろ解散。

芝川では、カモ達やタンギに会い、林では
シメやアカハラに会えるでしょう。

（担当＝楠見邦博、福井恒人、森本國夫）

12月21日（日） “86”にサヨナラをする会

会場＝浦和市立コミュニティーセンター
（12月6日（土）の野鳥写真教室と同じ）

I部 映画と講演 15時～17時

映画 「守ろうワシタカ」

講演 「オオタカを守って」

講師＝栃木県支部事務局長 中山正匡氏

II部 サヨナラパーティー 17時～18時30分

会費＝大人2000円 小人500円

※準備の都合上、参加される方は12月10日
までに、各探鳥会または事務局（0488-
32-4062）に申し込んで下さい。

1月3日（土） 北区 浮間公園と荒川

— ホロ酔い迎春探鳥会 —

午前9時30分埼玉線浮間舟渡駅前集合。
会員皆様とも、鳥達とも、新年のごあいさ
つ。カモ類、カモメ類、カワウ。

1月4日（日） 吉見町 吉見百穴周辺

午前9時30分東武バス停百穴入口前集合。
東上線東松山駅東口8：58発又は高崎線鴻
巣駅東口東海銀行前8：50発のバスが便利
です。タゲリ、カモ類、山の小鳥たち。

1月10日（土） 長野県 軽井沢

午前6時30分大宮駅中央改札口前集合。普
通電車利用の日帰り探鳥会です。費用は大
宮から往復4,300円です。（一区间特急利
用）。ハギマシコ、ベニマシコ、ミヤマホ
オジロ、イワヒバリ、ウソ、レンジャク。
大宮6：42発乗車、又は特急あさま1号大
宮7：22発でも可。

探鳥会報告

10月5日(日) 本庄市 阪東大橋

人 16人 天気 晴 鳥 カイツブリ ダイサギ コサギ カルガモ トビ ウズラ コチドリ イカルチドリ シロチドリ ダイゼン トウネン ハマシギ アオアシシギ クサシギ イソシギ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(34種)旅の途中のノビタキやツギ・チを皆でゆっくり観察した。

10月10日(祝) 北川辺町 渡良瀬遊水池

人 77人(県支部42人) 天気 曇 鳥 ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ミサゴ トビ チュウヒ チョウゲンボウ コチドリ ダイゼン ハマシギ ツルシギ アオアシシギ タシギ ユリカモメ シラコバト キジバト ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ノビタキ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(38種)栃木県支部との合同探鳥会で友好を深めた。お目当てのミサゴが川にダイビングするところも見られ、皆さん大満足。

10月12日(日) 熊谷市 大麻生

人 24人 天気 曇後晴 鳥 ダイサギ チュウサギ コサギ チゴハヤブサ ウズラ イソシギ キジバト アカゲラ ヒバリ ショウドウツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カッコウSP カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(28種)完成間近なゴルフ場の中の森でシメの群れを見た。約15羽。河原ではチゴハヤブサのダイナミックな飛行に感嘆の声が上がった。

10月19日(日) 浦和市 三空地区

人 72人 天気 晴 鳥 カイツブリ ダイサギ コサギ コガモ オナガガモ ノスリ クサシギ タカブシギ イソシギ タシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト ツツドリ アマツバメ カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビ

タキ シジュウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(35種)冬を前にして、ユリカモメ、ジョウビタキなどがやって来た。また、ツツドリ、アマツバメなど南に去る鳥も見られ、鳥の世界は選手交替の時期。

10月26日(日) 鳩山町 物見山

人 55人 天気 晴後曇 鳥 ゴイサギ コサギ ハチタマ オオタカ ハイタカ コジュケイ キジバト アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ウグイス エナガ ヒガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(32種)圧巻はオオタカの成鳥。枯れ松に悠然と止まる姿、飛び立って帆翔する姿を全員でじっくりと見た。

11月2日(日) 富士見市 柳瀬川

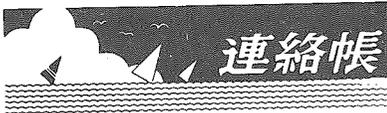
人 42人 天気 晴 鳥 コサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ チョウゲンボウ タゲリ ユリカモメ キジバト・ヒメアマツバメ アマツバメ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ シジュウカラ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(27種)ボカボカ天気でノンビリ探鳥会。この秋初めてのタゲリが20羽以上の群れで見られ、皆満足。

10月11日(土) 野鳥写真教室

人 14人 雨にも負けず、国電事故にもめげず開催。森下強講師は身近な野鳥写真の大切さを説いた後、タカの渡り調査にグライダーの上から参加したホットな体験を語ってくれた。作品発表も約200枚。



アオサギ・登坂久雄 撮影



冬鳥分布調査にご協力を

4 回目の県内野鳥分布調査です。12月1日から来年1月31日までの間に、あなたのフィールドでは、どんな鳥がどのくらい観察されるかをメモしておいて、期間後にまとめて同封のはがきを書いて送ってください。料金受取人払いですから、切手をはらずにポストにどうぞ。鳥の種類が少なくても貴重なデータとなります。ご協力をお願いします。

メッシュ地図と調査票による調査方法もあります。この方法もむずかしいものではありません。ご希望の方は資料をお送りしますので、調査予定地・住所・氏名を研究部までお知らせください。

今回は特に越冬するシギ・チドリ類に注目します。

探鳥会用の旗ができました

右上の写真に写っている旗、わかりますか。旅館の案内旗ではありません。わが支部の旗です。探鳥会集会所の目じるしなどに使います。タカの渡り調査が最初の出番でした。

会員数は

11月20日現在 606 人です。

活動報告

10月5日 全国一斉タカの渡り調査に19人参加。寄居町の鐘撞堂山と日高町の日和田山（高指無線中継所前）で実施。（右上写真）

10月12日 役員会（トランシーバーの購入、2月までの行事、その他）

同日 普及部会議、総務部会議。



（おつかれさまの日和田山グループ）

10月13日 N T T 浦和局と野鳥の声テレフォンサービスのリーフレット作成打合せ。

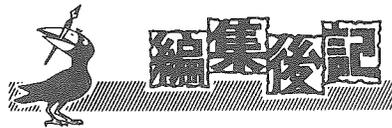
10月19日 編集部会議。

10月21日 N T T 埼玉支社と県内全域の野鳥の声テレフォンサービスについて打合せ。

10月25日 研究部会議。

同日 『しらこぼと』11月号袋詰め（がんばったボランティア4人、ちょっと手伝った人1人）。27日発送。

10月29日 埼玉新聞と毎日新聞浦和支局、利根川のガンについて取材。30日掲載。



今年の冬は何か寒くなりそうな予感があります。自宅の近くで10月中旬には、3年ぶりにヒガラが見られ、いつもなら真冬にならないと寄り付かないカケスもやって来ました。長期予報でもそのような予想が出ていたようです。あまり寒いのは有り難くないけれど、そんな冬は珍しい鳥が見られることがある

（森本國夫）

題字「しらこぼと」：日本野鳥の会会長・山下静一

（イラスト風見出し・鷹尾正斉）

『しらこぼと』

1986年12月号(第31号)

頒価100円(会費に含まれます)

発行人 今井昌彦

発行所 日本野鳥の会埼玉県支部

発行所事務局 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

電話 0488(32)4062

郵便振替 東京9-121130 銀行振込口座 埼玉銀行浦和支店普通預金316990

印刷所 望月印刷株式会社

（無断転載を禁じます）